

選考会における評価意見

団体	評価意見
特定非営利活動法人 KIZURI 中小田井	二つのリーフレット（活動計画書における No.1, No.2）は、若干、役割が異なるのではないかとと思われる。No.1 については、7 日 7 日に開催予定の説明会への案内チラシであり、フロー（消耗品）的要素が強いと言える。 対して、No.2 は、会の趣旨説明や入会案内を含めたストック的な要素が強いものと考えられる。その点を考慮して、デザインにかかる費用の適切な執行（No.2 に重点を置くべき）、適切な部数の印刷に心がけていただきたい。 また、No2 については、まちづくりの拠点としての「中小田井 寺子屋ポレポレ」を核としつつ、まち全体を紹介するような視点を加味して欲しい。そのため、拠点施設（点）から街道（線）、さらには歴史的な界限（面）に至る町全体の紹介を意識した上で、リーフレットの制作を求めたい。
名駅東花車・船入地区まちづくりの会	名駅東花車・船入地区まちづくりの会が活動するエリアでは、花車ビルの建て替え問題や山車文化の継承問題、防災をめぐるハードやソフトの多岐にわたる問題が存在している、との指摘があった。これらの問題群の解決の担い手は、それぞれ違うと考えられる（管理組合の関係者や土地の高度利用を担う不動産事業者、既存住民や未来の住民候補者など）。 活動計画書では、どの主体にどのような意識変容、行動変容を期待しているのかについて曖昧な点があった。このため、イベントや勉強会、アンケートを企画するにあたり、そういった点を予めよく考えた上で実施されることを期待している（例：A という主体に、〇〇の意識変容を促すためのイベントを開催する）。 今年度、構想策定を進めるにあたり、それを実現する担い手を一人でも多く巻き込んでいくことを成果指標として進めていかれることを期待している。

かんでら monzen 亭	笠寺観音門前町の賑わいを創出するための未利用民間地や公共空間を活用する社会実験であり、その目的を十分に団体や地域で共有した上で実施し、その成果を踏まえた構想づくりを行うことが必要である。 そのためには、社会実験の前提や目的を改めて団体、並びに地域との十分な協議の上で行うことが重要である。例えば、想定されるケースについては、帰宅時（日常）における 15 分の立ち寄りを想定しているが、非日常的な賑わい（縁日や参詣等）を目的とした実験も想定できるのではないか。様々な来訪者を想定する中で、構想づくりに向けて何が最も効果的であるのかについて熟慮した上で実験を実施して欲しい。 また、ピクトグラムやサイン計画などのビジュアル・コミュニケーション・デザインの手法（の開発）は、手段に過ぎないため、本来の目的である、「何のために、誰のための」賑わい創出なのかについて、地に足の着いた議論を踏まえた実験を行って欲しい。
熱田湊まちづくり協議会	宮の渡し・大瀬子地区まちづくり協議会がこれまで進めてきた活動により、比較的完成度の高い構想の中間報告がされてきた点が高く評価された。この中間報告に記載された構想の妥当性や住民の意識とのすり合わせは必要だが、今年度はそこから踏み込んで、構想の実現を一步でも前進させる一年となることを期待している。 活動計画書において、コンサルタントに委託する内容は、パンフレット作成やアンケート実施の他、各種活動への助言とされている。その中でも、まちづくりビジョンに対するアンケートを 1000 戸の住民に対して実施するとあるが、どのような対象（世代や属性）から、どのような意見やアイデアを回収するのか、アンケートをとった後の活動にどのように参加を促すのかを想定し、アンケートを設計、実施することが重要である。これらを踏まえて、構想の実現に寄与するアンケートとなるよう、コンサルタントの方ともよく相談して進められることを期待している。

※活動実施計画書については、評価意見を反映した内容で作成・提出をしてください。

※活動についても、評価意見を踏まえて実施し、中間報告および実績報告時には、評価意見を踏まえた上での実施状況を報告してください。